

# 新春日部

発行  
日本共産党  
春日部市委員会  
春日部市粕壁東  
6丁目7-12  
電話 748-5159  
FAX 748-5179

## 原発ノー！命かがやけ市民のつどい なぜ日本は原発を止められないのか

3月3日「原発ノー！命かがやけ市民のつどい実行委員会」は、3月11日の福島原発事故から13周年を目前に、原発ノーを訴える集会をおこないました。

今年にはジャーナリストの青木美希氏が「なぜ日本は原発



を止められないのか」と題して講演をおこない、その後、春日部駅西口で原発ノー！をアピールする集会をおこないました。青木氏は、福島原発事故の翌日から現場で取材を開始し、現在も取材を続けています。

### 能登半島では11避難ルート中7ルート寸断

能登半島地震では海岸が90キロメートルにわたって隆起し海が陸地になってしまいました。志賀原発は隆起した地点の7キロメートル先にあり

ます。日本の原発は海水で冷やし続けなければならず、原発が建っているところまで隆起したら海水を使えずメルトダウンを起こすことになる。多くの国民が「志賀原発は大丈夫か」と心配する中、「原発の真下に活断層はない」「志賀原発は安全」と安全神話を振りまいている。

能登半島地震では11避難ルート中7ルートが寸断され機能していない。宮城県知事が「避難方法の検証」を求めたにもかかわらず、「今回は検討しない」と結論付けた。

13年目を迎える東日本大震災の避難者は今も数万人が故郷を離れ避難している。

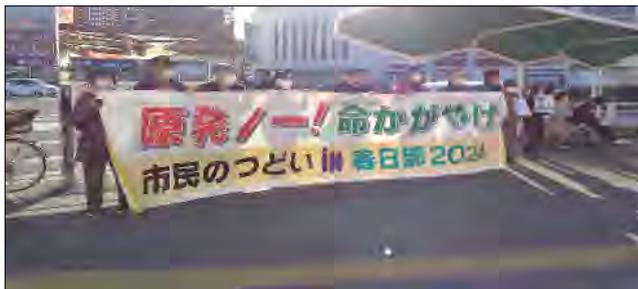
### 「世界に平和を！」 中学生飛び入り参加

青木氏は「このままでは第2、第3の福島が生まれかね

ません。沈黙は現状を追認すること。変えるのは発言すること。声を上げること。身近な人に伝える。Xでつぶやく。：自分にできることで声をあげましょう」と締めくくりました。

参加者はその後春日部駅西口で集会をおこない、「原発ノー」を市民にアピールしました。もうすぐ中学校を卒業するという4人組が飛び入り参加し「地震の被災地は大変な状況が今も続いています」

「世界に平和を」「僕たちがもがねばりません」と、次々マイクを握りました。



3月17日付赤旗日曜版は休刊となりますので「新春日部」も休みます

<生活相談は日本共産党へ>

並木としえTEL737-4576 大野とし子TEL746-6136 今尾やすのりTEL761-3676 木下みえ子TEL734-4677

日本共産党市議団ホームページ <https://www.jcp-kasukabe.jp/>



# 普通交付税107億円、実質的借金は約308億円、財政は健全です

春日部市の財政や職員数、女性管理職の状況など総務関連の質疑を大野とし子議員が行いました。

## 市税は個人、法人とも増額

令和6年度市税の個人分は、一人当たりの納税額見込みは10万5124円で令和5年より392円増額です。所得の平均は、約323万円で令和5年より増額となっていますが、県平均より約36万円低い状況です。法人分は、1法人の納税額見込みは31万8022万円で令和5年より、2232円増額です。市債残高は約776億円ですが、交付税措置後の実

質的借金は約308億円です。

また、令和6年度も科目としている繰越金は令和2年度約32億円、令和3年度約49億円、令和4年度38億円でした。

市民の願いのために自由に使える財政調整基金は、約30億円ですが、年度末財政調整基金は約12億円となります。

大野議員は、「市税収入も増加し、普通交付税も実質的には117億円と増加し、実質的借金は308億円となり、春日部市の財政は健全と考えるが、市はどのように分析しているのか。市税収入は市の財政の根幹です。税収を増やすため

には、子育て世代に選ばれ、事業者を応援することが求められます。子ども医療費を18歳まで無料にし、住宅リフォーム助成制度に取り組んだことを評価しつつ、次は、今大きなうねりとなっている学校給食費の無償化に取り組めば、子育て世代に選ばれる市になると考えるが、市は今後どのような施策を考えているのか。」と質しました。

財務部長は、「景気は緩やかに回復していると考えます。自主財源を伸ばすために企業誘致等に取り組みたい。」と答弁しました。

## 職員一人当たりの市民数は県内一位

職員数は、令和5年度より10人増の1467人で、増員は図られています。職員一人当たりの市民数は

264人で、令和6年度も県内で最も多い人数となります。

女性管理職の比率は、令和5年度課長補佐級において、243人中25人で9.9%となり、県内順位も40市中36位と最下位から順位を上げましたが、引き続きの努力は求められます。

消防職員は令和5年度286人で市の条例定数の96%国の指針の78%で、大規模災害も増える中、増員は喫緊の課題となっています。

## 配偶者暴力相談支援センターを設置

DVや児童虐待が増加する中、市民に寄り添いワンストップでの相談体制となるよう配偶者暴力相談支援センターの設置を求め、新庁舎において設置が実現します。

休日の当番医

市立医療センター TEL735-1261(夜間毎日、土・日・祝日)内・外科系 小児救急電話相談 #7119  
3/10(日) (内科系) わかば診療所 小淵1593 TEL753-3530 (小児科系) 豊春内科小児科  
上蛭田681 TEL760-2300 (外科系) 内牧クリニック 内牧3149 TEL755-2118  
3/17(日) (内科系) 大和田内科クリニック中央2-17-10 TEL760-2220 (小児科系) 岩本  
小児科医院谷原3-12-1 TEL795-8796 (外科系) 小笠原医院 新宿新田319-2 TEL746-0088